

閉会挨拶

就職問題委員会

中 明 夫 委員長

今回の研修会のコンセプトと申しますか、講演等につきましては、皆様の日常の仕事に直接役立てていただけるような知識を提供させていただくということで、講演等をプログラムに組み入れました。昨日の中根先生、先ほどの田北様のお話もかなり実践的に役立つお話ではなかったかと思えます。

もう一つのコンセプトとしては、いつもプログラムに入れております「グループによる討議」ということで、参加された皆さんの日常の体験の中から、いろいろな問題、あるいはいろいろな取組みを発表していただきながら、お互いに情報交換を通じて日常の仕事に役立たせていただく。お互いに同じ短大生の就職支援をするという仕事を担当する立場で、それぞれの短期大学だけの努力ということではなくて、互いに人的なネットワークをもつことによって、この研修会のこの場だけではなくて、いろいろな支援の広がりを持てる、というようなことになるだろうと考えております。

私は現在、短大協会の役員として、いくつかの役を勤めさせていただいておりますが、短大協会の役員全員が、今、短期大学の存在意義が非常に問われている、と認識いたしております。かつ、21世紀に入って、特に日本の社会の中で、短期大学がどのような役割を果たすのかということ、もう一度きちっと確認しあって、それを短期大学の共通の役割として認識する。そして、これからの短期大学の学生に対して、会員校が相互にこういう教育を実践していこうという認識の上に立って、提携、協力の意識を明確にもち、学生の指導に当たるということが必要なのではないかと考えております。

開会の挨拶の時にも触れましたが、今年度の短大協会の取組みとして、他の学校種と比較する中で、短期大学が果たす役割をいかに社会に訴えていったらよいのか、短大の存在意義をもう一度明確に会員校と共に確認をし合うという取組みが進められています。現在、ほぼ最終のコンセプトをまとめる作業のところまで行っております。来月の総会におきましては、学長、理事長がおそらく多数参加され、その場でその報告がされることになると思います。

最後に、私が今日、この閉会の挨拶として申し上げたいことは、当然、それぞれの短期大学における就職に関しては、皆様がたの努力により、質の高い、内容のある仕事をしていただくのはもちろんのこととして、同じ短期大学として、共通の責任、役割を果たす中で、より一層、相互に提携、協力の意識を明確にもって、学生の指導に当たるということが必要なのではないかとということです。昨日の幼・保等の分科会でいろいろな意見が出されたように聞いていますが、学生が就職する事業所のいろいろな処遇状況等についても、学生が適切に評価されるような状況を作っていくにはどうしたらよいのかという取組みを当然していかなければならない。それには、短期大学として相互に連携、協力の意識をもって

あたることが欠かせない。それも学生を教育し育てるという教育機関である短期大学の責任、役割だろうと思います。

日本私立短期大学協会では、全国組織として、会員校全体の協力、総意のもとにいろいろな取組みを行っていますが、当然、全国の各ブロックに協会の支部が同じく組織として存在しています。従いまして、皆さん、それぞれの学校に戻られた後、各支部の中の同じ短期大学として、また学生を育てる同じ仲間として、日常的に提携、協力ということを意識していただきたいと思います。個々の短期大学で頑張っていたかと同時に、同じ短期大学の社会的責任を担う仲間として、提携、協力を併せてしていくという認識をもって、是非この研修会の総括として、記憶に留めていただきたい。そして、それぞれの学校に戻り、きのう、おととい、先おとといよりも、より内容のある仕事ができるようになったと、この研修会で得たことを、是非活かしていただければと思います。

すでに私自身、今年の研修会についての反省点を感じておりますが、毎年同じパターンの研修をするということは基本的に私自身考えておりません。来年に向かって、また、皆さんにとって、よりプラスになった研修だったといわれるような研修プログラムを是非、ご提供させていただきたいと考えております。

最後になりましたが、運営委員としてお世話をいただいた就職問題委員会委員の方々に御礼を申し上げます。どうか、皆様方からも温かい拍手をいただければと思います。

これもちまして、今年度の就職担当者研修会を終了させていただきます。どうも有難うございました。